

川西市が実施している「市立幼保連携型認定こども園」の整備に関する要望書

2017（平成29）年4月14日

大塩 民生 市長 様
牛尾 巧 教育長 様

日本共産党議員団
住田 由之輔
北野 紀子
黒田 美智

3月26日（日）に「牧の台幼稚園と緑保育所が一体化した市立認定こども園の新設整備について」の地域説明会が行われ、工事がはじまっています。認定こども園の運営等については別途意見・要望をさせていただきますが、4月7日（金）に住民の方から涙声で電話がかかってきました。

「幼稚園の桜の木がなくなっている・・・園庭がものすごいことになっている。まさかこんな風になるなんて想像もしなかった。」と。

「市役所の担当課に電話をして、植木や花が根こそぎ掘られて大変なことになっていると話しをすると、現場のことや様子もわかっていない様子。どうして?!と訴えたら、『また植栽しますから・・・』と言われた。」と。

翌8日（土）に現場を見に行くと、この狭い園庭に何台の重機を入れるのだろうと驚く状況。桜やユキヤナギなどの木々は掘り起こされ、伐採された木々が山と積み、小雨に濡れていました。

現場監督の方にお話しを伺うと、「園庭にあるものは全て撤去するように指示を受けている。」とのこと。

川西市の進めたい「教育」って何なのでしょう。昭和50年に建設され、地域の子育て拠点として住民の方々と歴史・文化を紡いできた幼稚園。

こども達や保護者、職員や地域の人々とそれぞれの成



牧の台幼稚園の園舎(HPより)
右に見えるのがそのサクラの木



ガラの中で咲く桜



山積みのガラ

長を確認し、喜びを共にしてきたものをこの様な形で終わらせる在り様、命あるものを根こそぎ掘り起こし伐採・・・そして廃棄物として処理してしまう。これが川西市の教育委員会の仕事なのかと思うと怖い気がします。

「命を大切に」「こども達に最善の利益を」 どれほど美しい言葉を並べられても絵空事のようにしか聴こえません。

命ある木々や花々を全て葬り去って「新しい園舎が建てば、新しく植栽します。」の一言で片づけることができる教育委員会の在り様は理解できるものではありませんし、「仕方がないね。」と片付けられるものでもありません。

耐震化の問題もなく、少ない予算で保護者や地域の保育・教育への願いを実現することができるというのに、多額の税金を注ぎ込んで建設される施設整備。

こども達のため、地域の目玉・・・と担当は豪語されていましたが、巨額を投じ新しい立派な建物だけが姿を見せれば良いということなののでしょうか。

教育委員会・担当は、現場を見ることもなく、心を痛めるわけでもなく、「結果としての施設」だけを見て称賛するのでしょうか。



園舎とユキヤナギ



伐採されたユキヤナギ



重機とガラ